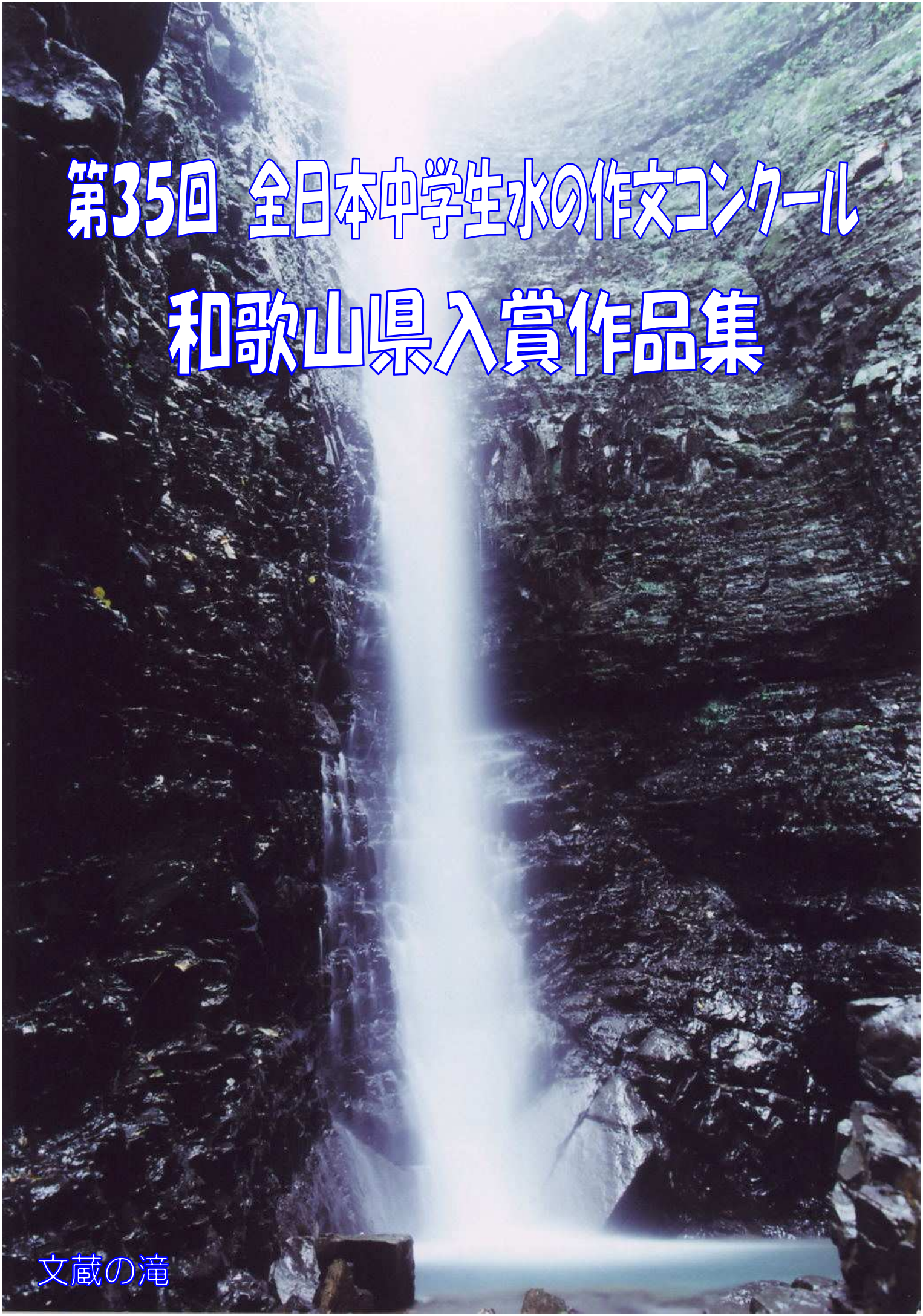
第35回 全日本中学生水の作文コンクール
和歌山県入賞作品集



文蔵の滝

表紙の写真『**文蔵の滝**』（和歌山県ﾎｰﾑﾍﾟｰｼﾞ　ﾌｫﾄﾗｲﾌﾞﾗﾘｰより）

四十八瀬川（穴伏川）の上流（かつらぎ町東谷）にあり、その昔文覚上人が荒行を行ったと伝えられることから、おそらく葛城の先達の修行の地であったと思われます。

春はつつじ、初夏には新緑、秋は紅葉が見事です。

和歌山県の「親しめる水辺 66 選」などに選定されています。

あいさつ

水は、あらゆる生命を支えるとともに、私たちの暮らしや、農業、工業などの産業活動を支えている限りある貴重な資源であります。一方、近年では、世界的に渇水、洪水が頻発し、水利用の安定性や安全で良質な水資源の確保が重要な課題となっています。

その「水」への理解を深めていただくため、八月一日を「水の日」と定めその後の一週間を「水の週間」とし、全国で様々な行事が実施されています。

和歌山県としても、限りある貴重な水資源を未来へ引き継ぐため、次世代を担う中学生を対象とし、日常生活での体験や両親、先生から学び聞いた話などをもとに、今一度水を見つめる啓発活動として、昭和五十四年度から「全日本中学生水の作文コンクール」を実施しております。

今回は、県内から五三四編の応募をいただきました。「水について考える」というテーマにふさわしく、身近に起こった火災での水利用、普段何気なく口にするミネラルウォーターから学んだこと、台風十二号での断水経験などに視点をおいて、いつもは忘れがちな水の大切さや怖さについて表現された作品がたくさんありました。

このたび、入賞作品十八編を作文集にまとめましたので、ご一読いただき、家庭や学校において、限りある資源である「水」について、関心を高め理解をより深めていただくことを願っています。

最後に、本コンクールに応募された中学生の皆さんと、ご担当いただいた先生方に厚くお礼申し上げます。

平成二十五年八月七日

和歌山県企画部長　野田寛芳

もくじ

優秀賞

身近な水の大切な働き　和歌山県立田辺中学校　一年　桑野　光加　・・・1

私たちと水　和歌山県立田辺中学校　一年　榊原　夏葉　・・・3

水と助け合いのつながり　那智勝浦町立宇久井中学校　三年　古田　夕貴　・・・5

入選

水を巡る戦争にならないためにも　和歌山信愛中学校　一年　秋月　智尋　・・・7

水の大切さ　田辺市立新庄中学校　二年　後藤　彩花　・・・8

水を守る　和歌山県立田辺中学校　二年　坂上　晴香　・・・9

水と山の関係　和歌山県立田辺中学校　三年　十河　義明　・・・10

水と森林　開智中学校　一年　土合　三春　・・・11

水の恐怖と大切さ　那智勝浦町立宇久井中学校　三年　畑下　あい　・・・12

私達の水、世界の水　和歌山信愛中学校　二年　平川　益子　・・・１３
人と水　開智中学校　一年　平山　真鈴　・・・１４
生きていくために大切な水　和歌山県立田辺中学校　二年　前　光結　・・・１５
水を守るために　和歌山県立田辺中学校　三年　三橋　咲紀　・・・１６

佳作

世界の宿題、恵みの水　和歌山信愛中学校　二年　北村　美優　・・・１７
水の作文　和歌山県立田辺中学校　一年　津葉井　春香　・・・１８
七十億ℓの水　和歌山県立田辺中学校　三年　西島　華御　・・・１９
水は友達であり命　紀美野町立美里中学校　二年　東浦　成人　・・・２０
私達の生活と水　和歌山県立向陽中学校　一年　森田　七望　・・・２１

（掲載順序は五十音順です。）

優　秀　賞

身近な水の大切な働き

和歌山県立田辺中学校　一年

桑野（くわの）　光加（みつか）

先日、夜十一時頃、静かだった住宅街に火事を知らせる防災放送が鳴り響いた。それを良く聞くと、私の家の近所だったので、お母さんが外に飛び出した。

「わー、すぐそこで火事やで」

私も外に飛び出した。自宅から一〇〇メートル足らずのところが火の海だったのだ。まるで、映画を見ているような光景で、私は余りにも恐ろしすぎて泣いてしまった。すぐに消防車が何台もやってきて、騒然となった。消防隊の人達が必死に放水しているが、炎はそれをあざ笑うかのように、私の家の方面に迫ってくる。

お母さん、炎がこっちに来るよ」

バリバリと音がして、火柱が立ち上がり火の粉が舞った。消防車が、火災現場までホースを伸ばしながら走っていく。隊員の人達が必死に作業をしていた。私は、心の中で　早く、早く、水を出して下さい」と叫び続けていた。板状だった消防ホースに圧がかかり、ゴー、ゴー、ゴーブシュ」と、物凄い大きな音とともに膨らんで、水が通ってパンパンになった。すぐに先から、放水が開始された。私は、この時ほど『水』の事を有り難く思ったことは無かった。

勿論、消防隊の懸命な消火活動のお陰で、延焼は食い止められたのだが、もし、近くに消火栓が無かったら、水が全く無かったら、あの恐ろしい火災は間違いなく私の家の辺りまで燃え広がっていたことだろう。

今回の火災で、近所の消火栓から大量に水を汲み上げたため、一時的に自宅では、水道水が出なくなってしまった。復旧した後も、しばらくは茶褐色の水が出続けた。水道がこんな状態になったのは生まれて初めてで、私はものすごく衝撃を受けた。お風呂のお湯もシャワーのお湯も茶褐色で、入ることができなかった。実際、水が出なくなったり、飲むことのできない水が出たりするという経験がない私は、とても不便を感じた。

私はこの経験から、いかに「水」が大切かということを改めて考えた。いつも蛇口をひねると勢い良くきれいな水が出る。とても当たり前のことであり、普段はありがたいともなんとも思わなかった。しかし、水は、私たちにとってかけがえのないものなのである。

世界では、水が少ない国や、飲用でない汚れた水を飲んでいる国などがあるそうだ。そのため、小さい子供が病気になったり、伝染病で死亡したりする。水は命に直結する大事なもの、たいせつにしていかなければならないものなのである。

私達の命の水」だからこそ、水についてもっと皆で考え、知恵をふり絞り、全世界にきれいな水がいきわたるようにしたい。そして皆が笑顔で幸せに暮らせるよう、努力していかなければならない。

優　秀　賞

私たちと水

和歌山県立田辺中学校　一年

榊原（さかきはら）　夏葉（なつは）

去年の夏のじりじりとした暑い日、のどがからからだった私は、近くにあった自動販売機で、ミネラルウォーターを買いました。その水の商品名は「ｖｏｌ ｖｉｃ」というもので、あちこちでよく売られているものですが、そのとき何気なくそのラベルに目を向けてみると、このミネラルウォーターはヨーロッパの軟水であるとの説明が書かれていました。

私は以前から海外の国に興味があったので、その後、このミネラルウォーターについてインターネットで調べてみることにしました。

するとそのページには、日本ユニセフ協会と「ｖｏｌ ｖｉｃ」が協力し合い、アフリカにあるマリ共和国の子供たちに清潔で安全な水を提供するというタイアップキャンペーンを実施しているという記事がありました。その記事の内容を読み、私はがく然としました。

「マリ共和国では不衛生な水を飲むことで、下痢やメジナ虫病、コレラやトラコマなどの病気を引き起こし、多くの命が失われている。また、清潔で安全な水さえあれば予防できる下痢が、五歳未満の子供の死亡原因の三番目、十八パーセントを占めている。」

記事にははっきりとそう書かれていました。私はその記事を読んで、清潔な水がなかったため、これまでに多くの命が失われてしまっているという事実にとてもむなしさを感じ、同時に、水道の蛇口をひねれば、いつでも、どれだけでも清潔な水を使うことのできるふだんの私の生活がとても貴重なことだと感じました。しかも、父から、水道水をそのまま飲むことができる国は日本以外にあまりないと聞きました。

私はあの日に買った一本のミネラルウォーターから、改めて水の大切さを学びました。水はまさに人間の命の源です。飲んで体のかわきをいやしてくれるだけでなく、ご飯を炊く、食器を洗う、手を洗う、お風呂に使うなど、生活には欠かすことができないも

のです。その水が清潔でないとしたら、病気にかかってしまうのは当然のことです。私たちのような水に恵まれた生活は、マリ共和国の人々にとって、まるで夢のようなことなのです。振り返ってみると、これまでの私は、きれいな水は当たり前にあるものだと思っていたし、生活のいろんな場面、例えば歯みがきのときなどは水を出しっぱなしにして、むだな水を多く使っていることがありました。

私はこれから、きれいな水がいつでも使えるということに感謝し、水をむだにすることのないよう意識しながら、大切に使いたいと思います。そして、できれば将来、貧しい国できれいな水を必要としている人々を援助するボランティア活動に参加し、遠くはなれた海外の人々が清潔で安全な水を使えるよう、日本の技術を伝えてあげられればいいなと思います。

優　秀　賞

水と助け合いのつながり

那智勝浦町立宇久井中学校　三年

古田（ふるた）　夕貴（ゆうき）

一昨年、台風十二号が私達の町を襲った。幸い、私の住んでいた地域は、他と比べて被害が少なかった。しかし、一つ、大きな問題があった。「水」だ。私の住んでいる地域は、断水まではいかなかったが、蛇口から出てくる水は、いつもの半分ほどになってしまっていた。お風呂やトイレがまともに使えず、とても不便だったのを覚えている。

台風が通り過ぎた後、父のもとに電話があった。他県に住む父の友人からだった。両親と電話がつながらない、という内容で、父が様子を見に行った。父が帰ってきてから話を聞くと、無事だったようだが、「水」が使えないようで困っていたらしい。そこで、父がポリタンクを買ってきて、水を入れて届けに行った。何日か続けて二つ三つ届けていたのを見て、私は改めて、水が無いことの不便さを実感した。それと共に、「助け合い」ということも感じた。

資料を見てみると、町内では、私の住んでいる地域以外のほとんどの場所で蛇口から水が出なくなっていたようだ。そして、断水は二十四日も続いていたようだ。これだけの長い間、多くの人々が水を十分に使えていなかったのだ。一人あたりの一日に必要な水の量は二～二・五リットルなので、計算すると一人あたり約六十リットルもの水が使えなかったのだ。

私は、あの時これほど多くの水が使えなかったのかととても驚いたのと同時に、助け合いというものの大切さも実感した。

一人で約六十リットルも必要なのに、それが何百人となれば何万リットルもいる。これだけの量の水は、このあたりの人々だけでは準備しきれない。多くの人々の協力が必要だ。多くの人々が助けてくれたおかげで、今私達は十分に水を使えている。私達は、水を使えるように助けてくれた人々に感謝をしなければいけないと思った。これは、今回の協力者だけでなく、先代の人々にも

するべきだと私は思う。先代の人々のおかげで、水道という便利なものができたからだ。

私は「水」と「助け合い」は、どこかでつながっていると思う。

例えば、先代の人々が水を使えるようにしたときには、その水を使う人々が色々な知恵を出し合い、協力し合って、水を使えるようにしたり、海外で水道からきれいな水が出ない所へ、水をきれいにする技術を教えに行ったりと、「水」と「助け合い」とがつながっている事がある。

生きていく上で必ず必要だからこそ、不足していったときには必ず助けるのだと思う。

節水もそうだと思う。将来、水不足で困ることが無いように、今から未来の自分たちを「助ける」のだと思う。

私は、これから「助け合い」の心を忘れずに水を使っていきたい。節水はもちろん、災害時には水の支援もしていきたい。

「水」を通じて、「助け合い」の心を学ぶためにも。

入選

水を巡る戦争にならないためにも

和歌山信愛中学校　一年　秋月（あきづき）　智尋（ちひろ）

私たちの身の回りには、水が当たり前のように流れています。家に帰り、手を洗う時、うがいをする時、料理に使ったり、お風呂に入ったりする時、外では庭の植物に水をやったり、魚は川の水で生きていたりと、水は人間だけでなく、いろいろな物に使用され続けています。

もし、地球から水が無くなると、どうなるのでしょうか。

夏の楽しみの一つ。海水浴にプール、それが出来なくなってしまうじゃないか。」

生活に困ってしまうわ。」

などの意見を言う人もいると思いますが、たぶん　死んでしまう。」と言う人が多いと思います。でも、それ以前に地球は水の惑星。水が無くなって死んでしまう？そんな事ある訳無いと思えます。しかし、インターネットで調べてみると、水不足で困っている国、一部を除いたアジア、アフリカ全域、南米諸国を中心とする世界三十ヶ国、十一億人の人が水不足で困っていることを知りました。さらに、一九九七年に世界人口の約三分の一は水不足という状況下にあり、二〇二五年にはなんと、世界の人口の半分～三分の二が水不足という状況になるだろうと警告しているそうです。

私はふと疑問に思いました。地球は水の惑星なのに、どうしてこんなにも水不足があるのだろうと。その事についてもまた調べてみました。

すると、地球表面の六十パーセントが水面。そういう意味では、水不足ではないんですが、人間が使える水（淡水）は豊富にある訳ではありません。なぜなら、地球上にある水の量の九十七・五～九十八パーセントは海水で淡水はわずか二・五～二パーセントしかないからなのです。海水は塩分が含まれているので飲めないし、生活用品にも使えません。さらに、わずか二・五～二パーセントの淡水のうち、約七十パーセントが氷河で、残りの三十パーセントは地下水。実際に使える淡水は、地球全体にある水の量の〇・〇〇〇二パーセント以下しかないそうです。世界の人口は約七十一億人。わずかな淡水を七十一億人の人口で分け合うのです。水不足があるのも仕方ない事。私は、海水を淡水に変える事はできないのかと思い、父に聞いてみました。すると、

海水を淡水に変える事は出来るけれど、その分お金がかかってしまうよ。日本は浄化技術や水道施設が完備されているから、川の水が浄水されて最終的に蛇口から出る水になるんだ。」

と言う答えが返ってきました。そして私は、「じゃあ、川の水は淡水なの？」と聞くと、

「うん。淡水だと思うよ。川の水は、海から蒸発した水が雲となって、雨になる。雨が山に降り、川に流れてきて海へ行くんだ。つまり、循環しているんだよ。だから、川の水は淡水で蛇口から出てこれるんだ。本当に日本はすごいよな。でも、水は無限にあるものではないから、無駄遣いしないように。節水だぞ。」

私は本当に地球には水がたくさんあるから、水に困る事なんてないと思っていました。しかし、水不足というのは私たちの国には関係のない事ではありません。二十一世紀は水を巡って戦争が起こると言われているそうです。水を巡って戦争をするなんて想像するだけでも嫌だし、そんなの考えられません。そうならないためにも、水を大切に使って行きたいと思います。ついつい、水を流し続けてしまうなどの無駄遣いをする人も少なくないと思います。自分一人の努力でもたくさんの人が気を付けていってくれれば、未来を良い方向に変えられるのではないでしょうか。

水を無駄遣いせず、大切に使って行きましょう。水を巡る戦争にならないためにも。

入選

水の大切さ

田辺市新庄中学校　二年　後藤（ごとう）　彩花（さやか）

日本は水が豊富で、少し蛇口をひねれば、その水を飲むこともできます。日常生活の中でも使用する場面が多くあります。

また、それらの水は、自然のものもあればきれいに浄化されているものもあります。

私は、必要以上に水を使ってしまいます。手洗いをする時でさえ、大量に水を出してしまい、自分でも、

「もったいないな。」

と思うくらいです。なので、注意されることもありますが、今でもたまに心がけようとしていても忘れてしまうこともあります。

だけど、正直に言えば、

「水を大切にしなさい。」

と言われても、実際、それで困ったことがなかったような気もしていたので、なぜそう言うのかがあまり分からないでいました。

いつの事だったかは忘れてしまったけれど、あるニュースで、

外国では、ジュースよりも水の方が値段が高く、入浴などに使う水は日本のように浄化されているものではなく、海水を使用している。」

と言っていました。

私は、驚きもしたけれど、それ以上に日本は本当に水が豊富だということを初めて実感しました。

また、別の国では、

「泥水を飲み水として使用している。」

というのも聞いたことがあります。その国の人達は、小さな子どもでもわざわざ遠くへ歩いて水を汲みに行っていると言っていましたが、その水は、その人たちにとっては、とても重要なものです。

場所によっては、井戸などが設置され、浄化されているものも飲めるようになってきています。

だけど、国全体で考えれば、まだまだそれでは追いつくことはできません。そんな姿を見ると、自分の水の使い方が間違っているということと、それを何とも思っていなかったことが情けなく思えました。また、注意された意味も理解できたような気もしました。

人間だけでなく、水中に生息する生物も、当然、水がなければ生きていけません。

しかし、今では、ゴミのポイ捨てや食べ残しなどが原因で、水が汚染され、生物の数が減ってしまう傾向になっていると言います。

実際、そういう環境になってきたことで、絶滅危惧種に登録されてしまった生物や、とうとう絶滅してしまった生物も少なくありません。私は、これらのことを知るたびに、これからどんな事をすれば、少しでも使用する量を減らせるか、汚さずに済むかということを考えさせられます。例えば、食べ残しは極力しないようにして、必要のない時は、完全に水を止めておくことを常に心がけておきたいです。そうすれば、とても些細なことだけど、少なくとも自分の水の使い方を見直すことができます。

そうして、「水があるのは当たり前」という考えをせず、水の大切さを考えられるようにしたいです。

入選

水を守る

和歌山県立田辺中学校　二年　坂上（さかうえ）　晴香（はるか）

切っても切っても切れないものなあんだ。水。」

こんななぞなぞを、幼い頃よくしていました。この問答を聞くと私は、蛇口から出てくる水を何度切ろうとしても切れず、水が流れて出てくる様子を思い浮かべます。そうです、私たちの国、日本では、水道の蛇口をひねれば、水が出てくるのです。しかも、飲むことができる水が出てくるのです。しかし、世界中がそうではありません。

以前、水で困っている国に井戸を掘りに行くというテレビ番組を見ました。その国では、子どもたちが、何キロも離れた場所へ、何時間もかけて水をくみに行くのです。一日の大半を水くみに費やすのです。そうして、着いた先にあるのは、野生動物の水飲み場でもあるところで、見るからに不衛生な泥水なのです。私は、「この水を使わなければならないなんて。」と、がく然としました。こんなに苦労して得られる水がこれほどひどいとは……。

でも、この子供たちには、その水を使うしかないのです。水は、生命に欠かせないものだから。そこで、少しでもきれいな水を使えるようにしようと、日本の技術で井戸を掘り、役立てようと懸命に取り組んでいました。

また、この番組を見ているうちに、私はなんて幸せなんだろう。」という思いがわき上がってきました。私は、今まで水の心配をしたことがありません。いつでも何の苦労もせず、水を手に入れられる環境にいることに改めて気づきました。

そして、そんな日本の水資源について、さらに夕方の報道番組で放送されていたことがあります。

森林に降った雨は、土の中に浸透し、地下水として蓄えられます。その水が、人々の暮らしを支えています。こうしたきれいな水は「ブルーゴールド」と呼ばれ、日本は、「ブルーゴールド」に恵まれた国と言えるそうです。

今、こうした日本の地下水に注目が集まっています。水資源不足や水質が悪くなっている世界的状況の中で、飲料に適するきれいな水の経済的・資源価値が高まっているのです。

特に、中国は、水質汚染や水不足に悩まされています。そのため、上海のスーパーマーケットでは、日本の水が並び、売れています。水の宅配も行われています。

このように、水に対する需用が高まる中、地下水をくみ上げ、ペットボトルに詰めて売る業者が増え、そのため、地下水の量が減少してしまった地域も出てきています。

日本は、水資源に恵まれている一方、世界第二位の水消費国でもあり、一人一日あたり三百リットルも使用しているそうです。風呂も、トイレも、洗濯も、どれも飲むことができる水を使っているのです。私は、今までそのことに気づいていなかったので、改めて、「これでいいのか」と考えさせられました。

水資源の豊かな国だからこそ、この限りある資源を大切に守っていかなければならないと強く思いました。私にできることは、歯みがきやシャンプーの時、水を出しっぱなしにしないことなど、小さなことかもしれませんが、節水に取り組むこと。そして、それを続けることが、水を守ることにつながると思います。

水は、生きるものすべてにとって、切り離せないものだから。

入選

水と山の関係

和歌山県立田辺中学校　三年　十河（そごう）　義明（よしあき）

水と山は深い関係にある。」

この言葉を初めて聞いたのは、小学校に入る前だった。この言葉を言ったのは私の祖父である。その時私は祖父にその理由を聞いたことを覚えている。祖父は、

「雨が山に降って、その水が地面にしみていく。その水が山を下り川に流れこむ時に、山はその水を止める役割をしてくれる。」

と言っていた。その時の私には祖父が言っていることがよく分からなかった。

その意味を理解したのは、私が小学校の高学年になった時だった。その時に小学校の社会の学習で山と水の関係について学習したのがきっかけだった。先生の話によると、山は、ダムのような役割をしている。そして山がかれていると山はダムにはならないと先生は言っていた。

中学一年生の夏、台風の影響で祖父の家が土砂くずれに巻き込まれた。その時に家の一部が土で埋もれてしまった。その時に私は、偶然祖父の家にいて崖がくずれるのを見た。当時、祖父は体が弱くなっていて山の管理が出来なくなっていて、山はすこしずつかれていっていた。そのタイミングと台風が重なってしまった。そのため祖父の山はくずれた。この時私は本当に山はダムの役割をしているのだと身を持って体験した。

この時から祖父の山は少しずつ良くなっている。だが、まだまだ山は完全な状態には遠い。何故なら山が完全な状態の時は、雨が降っても川の水はそこまで増えない。だがまだ山はダムの役割を果たせていないため、川の水の量が大分上下している。これは夏の水不足につながったり、川の氾濫につながってくる。そのため山を管理することは川を管理することにもつながってくるのだ。

山を管理することは水を管理することと同じだ。例えば山に化学薬品の入った農薬を大量にまいたら、川の魚が死に絶え、川から魚がとれなくなったという事件があった。つまり山を汚染することは川を汚染すること、川を汚染することは海を汚染することになる。つまり山を汚すのと水を汚すのは同じ意味である。私達の体のほとんどは水で出来ている。しかも私達は、水が無くては生きていけないだろう。水を三日とらなければ人は死んでしまう。もし水が飲めなくなるくらい水を汚してしまうと私達は死んでしまうのだ。

私は祖父の家の崖がくずれた時、その土を取り除くのにすごく時間がかかったのを覚えている。水の汚染も私は同じだと思っている。山や水を汚すのはとても簡単なことだ。それは崖がくずれるのと同じように一瞬で出来てしまうだろう。だがその汚した水や山を直すには、とても時間がかかって、しかもそれなりの代償も必要になってくる。それを起こさせないためにも、私達は、気をつけて日常生活を送っていかなければいけないと私は思う。

だが水だけを汚さないように生活してもあまり効果は望めない。水を汚さないようにするには水と関係があるところ全てを管理しなければならないと思う。そのために私はまず山を保護し管理していかなければならないと思う。何故なら山は、私達に一番身近な所であり、水と深い関係にある場所だからだ。

入選

水と森林

開智中学校　一年　土合（どあい）　三春（みはる）

私は朝起きるとコップ一杯の水を飲みます。人間の体の約六〇パーセントは水分と言われ、大人で一日約二三〇〇ミリリットルの水が体から排出されるそうです。それで、両親からいつも、

「水をよく飲みなさい。」

と言われます。

そこで普段飲む水について調べてみました。私が住んでいる岩出市は、井戸水をくみ上げて浄化しているそうです。私は、紀の川から水を引いていると思っていたので、驚きました。消毒には「次亜塩素酸ソーダ」を使って、安全な飲料水を作ってくれています。

私の祖父母は、タイに住んでいたことがあり、タイの水について聞いてみました。

タイは日本と違って、塩素消毒をしていないため、水道の蛇口から直接水を飲むことができないそうです。試しに祖母が蛇口に布をかぶせてから水を出してみると、布に土が付いていたそうです。祖母は、歯をみがいた後や顔を洗う時は、買ってきたミネラルウォーターを使っていたそうです。

私もタイに行った時にプールに入りましたが、その後にはミネラルウォーターで顔を洗いました。私は、何かと不便だなと思いましたし、両親もミネラルウォーターを何度も買いに行かなければならないので大変だなと言っていました。そんなタイでの経験から日本の水道設備の素晴らしさがよく分かりました。

日本では「水道法」という法律によって水質が大変厳しく規定されています。水の中にいる大腸菌などのバクテリアの発生を防ぐために塩素を使用しているそうです。日本は、この「水道法」のおかげで世界的に見ても大変珍しい、水道水が直接飲める国であり、私たちはそれを誇りに思わなければなりません。

そこで、日本の水をいつまでも大事にしていくためにはどうしたらよいのか考えてみました。最近日本では台風シーズンなどに大雨が降ると水害がよくおこります。土砂災害や家屋への浸水による被害は甚大です。その結果、雨の大部分が水資源として利用されないまま、海へと流れていきます。これからの日本はもっと森林を増やすべきだと私は思います。なぜ森林を増やすべきかというと、森林に降る雨はゆっくりと枯れ葉や微生物を含んだ土に染み込み、雨水が自然に浄化されて大地の成分を含んだ素晴らしい水となるからです。また森林は自然のダムとして働き、大雨が降っても恐ろしい土砂災害を防いでくれます。もちろん、森林が増えることで空気もおいしくなるので、一石二鳥です。私の住む和歌山は森林が多いので、森林保護に従事する林業も守っていく必要があります。

今まで私は、とくに意識せず水を飲んで、お風呂に入り、シャワーのお湯も使いたいだけ使っていました。しかし、「水」について考えたことで自然の大切さ、日本の水道設備の素晴らしさを知り、また災害を最小限におさえるためにも森林を保護する必要性を感じました。日本の素晴らしい水資源をいつまでも大切に守りたいと強く心に感じました。

入選

水の恐怖と大切さ

那智勝浦町立宇久井中学校　三年　畑下（はたした）　あい

二年前、日本に二つの自然災害が起こった。一つは、東日本大震災。もう一つは、私の住んでいる紀伊半島を襲った台風十二号。この二つの災害の共通点は、たくさんの命が失われたこと。そして、その大きな原因と言えるのが、水だ。東日本大震災では津波、紀伊半島では大雨による洪水。どちらの災害でも、「水」が大きな被害をもたらした。しかし、その後必要とされたのは「水」だった。

紀伊半島大水害に目を向けてみる。私の住んでいる地区には、洪水の被害が無かった。しかし、他の地区の被害は大きかった。川が氾濫し、地区を襲う。そして、深刻になったのは、水不足。私の住んでいる地区でも二、三週間ほど水道が止められた。その時、私は身を持って実感した。水を充分に使えないことの不便さを。二、三週間の生活は、普段とは全く違っていた。「水」を意識する生活だ。

今ここで水を使う必要があるのか、ここで使う水はもっと減らせないかなど、節水を心掛けた。普段と違う生活に、私は戸惑った。それだけ水を大切にすると言うことを出来ていなかったということだ。

また、私は一つのことを考えた。水ならたくさんある。洪水しているのだからその水を利用すればよい。しかし、そう甘くはなかった。他の地区を襲ったのは、水だ。それはきれいな水ではなく泥水。飲み水に使えないのはもちろん、洗濯や掃除にも使えない。あふれかえっているのは汚い水。必要とされているのはきれいな水。そこで、汚い水をきれいな水にすることが出来れば、掃除の水としてなら使えるだろうと考えた。社会の教科書でその様な薬剤があるような事が書かれていた事を思い出し、教科書を開いた。一九九五年の兵庫県南部地震で、生活用水の確保が重要な課題となった。大阪にある中小企業が、この経験をふまえて、よごれた水を飲み水にできるほど浄化する薬剤を開発したそうだ。この薬剤は、水道整備が進んでいない発展途上国で役立っているそうだ。例えば、インドの東に位置するバングラデシュという国では、水を運ぶ仕事をしていた現地の人々と協力しながら、貧しい人々でも買えるほど安価な価格で薬剤を販売し、水環境を改善しているそうだ。この薬剤を利用すれば、生活用水の確保は出来たと思う。しかし、その水は人の命を奪った水。それを飲み水などに利用するのは、やはりためらいがある。それなら、掃除やトイレの水に利用すれば良いと思う。また紀伊半島は雨がたくさん降る。それを利用し、水力発電を行ってみるのも良いと思う。

これから先も、私達は様々な自然災害に襲われるだろう。私の住んでいる地域では、東南海・南海地震による津波の被害が心配されている。怖い。しかし、そう思っているだけでは助かる命も助からない。「水」によってもたらされる災害。そして水不足。日本各地で起こってきた。今までの教訓を生かせば、被害は必ず減る。

いつも水にお世話になっている私達。それが当たり前になってしまえば、時には水だって私達の敵になる。しかし、そうなるのはその時だけ。私達はそんな水と上手く共生していく必要があると、二つの自然災害から学んだ。

入選

私達の水、世界の水

和歌山信愛中学校　二年　平川（ひらかわ）　益子（あきこ）

私達は、水というものがあって生きていくことができています。料理をする時、お風呂に入る時、服を洗濯する時、手を洗う時、喉が渇いた時…。もしも、水を使うことを禁止されたら私達はきっと長く生きることは出来ません。そう、人間にとって水というのは無くてはならない必要不可欠な存在なのです。

でも、水が必要不可欠な存在だからと言って蛇口をひねると美しい水が出てくることをあなたは当たり前のように思ってはいませんか。蛇口からはいつまでも水が出るからと言って水を出しっぱなしにしていませんか。

実は今、水不足で苦しめられている人々が全世界人口の三分の一もいます。その上、二〇二五年までには三分の二にまで及ぶと予想されています。

私はこのデータを知った瞬間、とても驚きました。

「同じ地球に住んでいるのに、水不足で苦しんでいる人々がこんなにもいるのか。」と最初は信じることが出来ませんでした。水は、生命を支え、その国の農業生産にも大きくかかわってきます。しかし、今地球上ではこの水をめぐり国家間の紛争まで起きているのです。複数の国が流域を共通している河川や湖ではこのような悲しい争いが絶えないそうです。

「生きていくために必要な水を奪い合う。」

私はこんなことはあってはならないと思います。お互いの国が手に入れようとする水。争いに負けた国は水を手に入れることは出来ません。でも、それだけ水は人が生きていくために必要ということなのです。

では、この水を大切にするためには、世界中の人々が安全なおいしい水を飲めるようにするにはいったいどうすれば良いのでしょうか。

私は水を大切に使うためのプランを考えてみました。

まずは、節水です。こまめに水を出しすぎていないかを確認するのです。

二つ目に、森や林、川や海にゴミを捨てないことです。森や林は川や海の生き物の成長に欠かせない大切な栄養分を育み、川や海に送り出しています。これが川や海の自浄作用を強くしているのです。だから、美しい川や海を守るためには森林も守らなければなりません。

三つ目は、水問題は他人事ではないと言うことをいつも心に留めておくことです。私達と同じ地球に住む人々を、水問題から救ってあげたいと日頃から強く思うことが大切なのだと思います。

この美しい地球に住んでいる私達。

美しい水をいつでも手に入れられる私達。

反対に水を手に入れることさえ難しい人達。

私はいつか世界中の人々が美しい水を飲めるようになってほしいと願っています。

そして、それを実現させるためには一人一人の小さな努力が積み重なって大きな力になることが絶対に必要なのだと思います。

美しい水が世界中の人々に行き渡り続けますように。

私達にできること、今から始めてみて下さい。

入選

人と水

開智中学校　二年　平山（ひらやま）　真鈴（まりん）

日本の水の素晴らしさについて、私が小学生の時に実感したことがあります。それは、祖父と一緒に東南アジア〈旅行に行ったときのことです。その旅行で、祖父からこんなことを言われました。「旅行中、絶対に生水を飲んではいけない。」と。グラスに入っている水もダメだというので、レストランでジュースを注文するときも氷抜きで注文しました。私はなぜそこまでしないといけないのかを祖父に尋ねました。すると、「この国の水は衛生的によくない。日本人が飲むとお腹をこわしてしまう。」と教えてくれました。私はとても驚きました。そして私は歯みがきの時もレストランで飲むジュースよりも高い水を買ってうがいをしたり、とても気を使いました。観光に行っても驚くことがありました。それはトイレです。日本では、トイレに行くと当たり前のように水で流しますが、ここではできないということでした。水は決められた時間にしか流れないので、本当に大変でした。私はホテルでしかトイレに行けなくてとても困りました。その後、日本に帰ると、水道の蛇口をひねれば清潔な水が出てくることに安心しました。私は日本はなんと恵まれた国なんだと思い、「水」に対する私の思いが一新しました。

その後、私は「水」についての自由研究をしました。日本の水の豊かさと、美しさをみんなに知ってもらおうと始めましたが、私は「水」について調べるうちにびっくりさせられました。それは水の豊かな国と言われてきた日本は、今では国民一人あたりの水資源量では世界で八十二番目だというのです。そればかりではなく、水の衛生面についても、アメリカには水質基準に対して三百項目以上の規定があるのに対し、日本は未だ五十項目しかないということです。新しい細菌やバクテリア、発癌性物質などが発見されていく中、基準をなかなか改めようとしないということです。さらに、資源に対する意識の低さです。

フランスでは、企業や一般家庭が極力排水を出さないように気をつけ、またゴミ回収船が定期的に就航し、隅々までゴミや汚染物質を取り除き、自分たちの水をまもっています。私達も水を大切にするためにそういったところは見習う必要があります。

水に対しての資源意識をもっと高めなければならない日本ですが、海外の水に比べて日本の水はおいしいと評価が高いのも事実です。このおいしい水を守っていくために私たち一人一人が水は大切な資源なんだという意識を高めていかなければなりません。「湯水のように使う。」という言葉がありますが、水不足は深刻なのです。

私は小学生の頃行った旅行での経験を思い出しながら、今当たり前に使っている水に感謝し、日本の安全で、おいしい水を守っていくために、自分にもすぐにできること、「一滴の水も無駄にしない」ということを心掛け、実行していきたいと思います。

入選

生きていくために大切な水

和歌山県立田辺中学校　二年　前（まえ）　光結（みゆ）

食料とともに水は、欠かすことの出来ない大切なものです。

五リットル、これが一人あたり一日に必要な最低の水の量です。これはあくまで緊急の時の目安だそうです。料理や掃除、洗濯などに使う量を入れると十八リットル以上は必要となります。

世界にはコップ一杯の水によって命をつないでいる人々がいる一方で、日本人は一日約三百十六リットルの水を使っていると言われています。実際に私も朝起きてから、歯を磨き顔を洗いトイレに行き、当たり前のように水を使っています。

世界では、六人に一人が安全な水を得られないと言われています。開発途上国を中心に、水や衛生状態が原因でなくなる乳幼児は、毎年二百万人にものぼるそうです。開発途上国では、水道や井戸などが不足しているため、大人だけでなく、子供が水くみに費やす時間が長く、なかにはそれが原因で学校に通えない子供たちも少なくありません。日本ではとても考えられない状況でかわいそうだと思います。

また、トイレなどの衛生施設や下水道も整備されていないため、水の汚れが進み、その結果病気にかかる人々が多いと言われています。

私もテレビ番組で、毎日何時間もかけて何度も水をくみに出かける生活をしている子どもの姿を見ました。それは、何リットルもある容器を頭に乗せ、当たり前のように頑張っている姿でした。出演していた女性タレントも十歳ぐらいの子どもと一緒にわき水をくみに行くのですが、水が重たいのと気温の暑さで、途中で何度も休憩していました。毎日のことで慣れているとはいえ、小さい子どもにとってとてもたいへんな重労働だと思いました。

テレビ番組では、この状況をなんとかしようということで、日本から井戸掘りの名人を派遣して、井戸を建設しようという内容でした。

実際、くんできた湧き水は、ドロドロで日本人の私が見てとても飲めるようなものではありませんでした。それでも、開発途上国では、どうすることも出来ず、洗濯はもちろん、料理にも使っていました。

日本には、海水を真水にかえる淡水化の技術のほか、雨水の有効利用や節水の技術など、水関連の進んだ技術がたくさんあります。日本はこうした技術を開発途上国に伝えることで、水問題の解決に取り組んでいます。また、たくさんの井戸を開発途上国で建設したり、井戸が壊れた場合に備え、修理できる人を育成したり、予備の部品を届ける体制を整えたりしています。こうしたことは、日本が世界にほこるきめ細かな心配りとして高く評価されています。

私自身個人的にできることは、ユニセフや赤十字への寄付、そしてこんなに困っている人がいることを一人でも多くの人に知ってもらうために、もっと世界のことを勉強していくことだと思います。

そして、毎日の生活でも当たり前のように蛇口をひねると出てくる水の節水に心がけ、水を大切に使いたいと思います。これからの季節は、水の使用量が最も増える時期だと思いますが、無駄な使い方をしないように心がけたいと思います。

生きていくために必要不可欠な水。水の大切さをこれからも一人一人が考え、節水を実行していかなければならないと改めて思いました。

入選

水を守るために

和歌山県立田辺中学校　三年　三橋（みつはし）　咲紀（さき）

水の惑星と呼ばれるこの地球には、豊富な水がある。しかし、そのうちのほとんどは海水などで、人間が飲料水にできるのは地球全体のたった〇・〇〇八パーセントしかない。今も世界の人口の半分が不衛生な水環境の中におかれ、水をめぐる国際紛争にまで至っている地域もある。また、不衛生な水による病気で一日に六千人もの子どもが死亡している状況にあるという。さらに地球温暖化や化学物質の脅威により、先進国を含めた世界の水が危機的状況に陥ろうとしているそうだ。私たちはこれから、この問題にどう立ち向かっていけばいいのだろう。

私たちの住むここ和歌山は、周りを海に囲まれ、山や川も多く、水には恵まれた環境である。蛇口をひねれば、すぐに飲料できる水が出てくる。都会の水はカルキ臭いとよく耳にするが、私たちの使っている水道水は全くそういうことはない。ありがたいなと思う。けれども、水に恵まれたこの生活の中で、私たちは水の大切さを忘れがちだ。

学校で生活排水について学習したときのことだ。私は驚いたことが二つある。

まず一つ目は、日本では都市への急激な人口集中や山がちな地形などの理由で、下水道の普及がなかなか進んでいないこと。下水道が完備されていない地域では、生活雑排水の大部分が未処理のまま川に流されているということだ。

そして二つ目は、教科書に載っていた「生活雑排水をそのまま川へ流すと…」という資料。薄めて魚が住めるようにするには、牛乳二〇〇ミリリットル流すとき水はふろおけ約九・三杯、コーンスープ一八〇ミリリットルではふろおけ約一五・三杯、天ぷら油四〇ミリリットルではなんとふろおけ四〇杯も必要だという。予想を上回る数字に思わず目を疑った。私たちが何気なく流している生活雑排水だが、日本でも様々な問題点がのこされていることが分かる。

水の使用量は年々増え、雨量が少ない年には深刻な水不足になることもあるそうだ。このため、節水対策や排水の再利用、海水の淡水化利用などが進められているという。

この中で私たちができることを考えてみよう。節水のためにどんなことを心がけたらいいだろうか。シャワーのときに水を出しっぱなしにしない。お風呂の残り湯を洗濯に利用する。食器の油汚れは新聞紙などでふき取ってから洗う。分解性の良い洗剤を利用して、すすぎの水の量を減らす。これくらいだったら私たちにも実行できるのではないかと思う。

去年くらいから、家では「シャワーを極力使わない運動」をしている。洗濯洗剤もすすぎ一回用に変えた。その結果、水道代が半分近く減っていたそうだ。心がけ次第でこれだけ変わるんだなあと実感したものだ。我が家ではもう、節水は始まっている。この調子でずっと続けていけたらいいなと思う。

草むらに腰を下ろし、目を閉じるとサラサラと川のせせらぎが心地よく耳に響く。家の近くには海や川があり、小さな頃からよく遊びに行っていた。今でもたまに行き、日々の疲れを癒してもらっている。こうして私は水に親しみ、たくさんの安らぎを与えてもらいながら生きている。私にとって、水はなくてはならない存在だ。感謝の気持ちを忘れてはならないと思う。

私たち人類にとって、水はかけがえのない大切なものである。今この機会に水の大切さを改めて見つめ直し、地球全体のためにも限りある水資源を守っていく努力をしていかなければならないと思う。

日本や世界の水環境をできるだけ早く整えて、全ての人々が安全な水を使えるようになる日が来ることを願っている。そしてそのために、今自分ができる精一杯の努力をしていきたいと思う。

佳作

世界の宿題、恵の水

和歌山信愛中学校　二年　北村（きたむら）　美優（みゆ）

幼い頃から、蛇口をひねれば飲み水が出、シャワーはジャージャー、朝風呂だって入りたい放題。トイレは水洗、万が一断水してもペットボトルの水が買える。

公衆トイレも駅のトイレも、学校でも公民館でも…と、数えていたらキリが無い程、私の周りは水で溢れ、有って当たり前、という存在である。

以前祖母の家に行ったときの事、私が某有名ＣＭの水を飲んでいるのを見た祖母は「水なんか買うて飲むなんか、信じられへん。勿体ない。」と言った。

私は「自動販売機にもあるで？」と答えたのだが、祖母は「考えられへん。あんたは知らんかも知れんけど、昔は井戸が当たり前。当番制の水汲みはしんどいし、覗くと深くて落ちそうで怖いし、なんぞ出てきそうやし。せやけど、苦労して手にいれた水は、冷たぁて美味しかった。それに今は、上下水共技術が発達してええ水あんのになぁ……。」と、苦い顔をしていた。「井戸」か……。

私は本物の井戸をまだ、生で一度も見た事が無く、水を汲むという行為も分からない。水は何時でも傍にあるからだ。けれど先日、興味深い番組を見た。

それは、アフリカの奥地にある村の水事情を放送した番組で、そこで水を得るには集落から数百メートル程離れた場所まで水を汲みに行かなければならず、そこは集落一帯の人数を賄うには到底足りないであろう、茶色く濁った水溜まりが一つだけあるという内容のものだった。そこへ、使い古されたバケツの様な物を頭にのせ、人々は毎日通う。就学前の子供も、同じように通う。得られる水は濁り不衛生極まりないのだが、喉を潤すため、生きていく為には贅沢は言えないのである。洗濯、器洗い、風呂（夕ライの中の水浴び）など総てをこなす為、雨水さえも利用しながら家族は協力しあい節水、水汲みをしている。

その番組では、タレントが現地で井戸が必要な場所かを判定し、ボランティアの方がその地域に「井戸」を造るといった志向の番組であったが、少し疑問が残った。

タレントが判断、若しくは番組制作会社が判断することなのだろうか。確かに、その地域に井戸は必要であった。が、世界的に見ても限定地域だけではなく、もっと地方にも目を向けなければいけないのではないだろうか。そして、ボランティアを派遣するのであれば、掘ってお終いではなく、井戸を掘る専門的な技術の継承、必要資材を見極める目を養成、地学的専門家等々の育成をすることが、必要なのではないだろうか。一個人ではなく、世界的に大きな宿題として、協力し取り組まなければいけないのではないか。勿論、個々の節水は必要不可欠であるが…。

その番組を通してだが、私は祖母の言っていた本当の意味が、わかった気がした。

存分に使えるからと無駄使いし、喉を潤す為だけに、何の苦労もせずペットボトル安易に買う行為はどうなのかと。そのペットボトル一本は、乾いた人の生活の何日に相当するんだ？と、私に問いたかったのかも知れない。

私はまだまだ勉強不足だから、専門的なスキルも、資材を提供できる力もない。

だが、節水なら出来る。少し我慢も出来る。少しかもしれないけれど。そして、呼びかける事ができる。大きな宿題をしよう！と。

井戸が造られ、地下の水源から透明な水が出た時の集落の人たちはみな、心の底から嬉しそうであった。そして、溢れんばかりの笑顔で「神様からの恵みの水だ。感謝します。」と一様に答えていた。

その笑顔をもっと増やすことができるよう、声高く呼びかけ続けていきたいし、又、自分も努力しようと思っている。

佳作

水の作文

和歌山県立田辺中学校　二年　津葉井（つばい）　春香（はるか）

水は、お風呂や料理など、世界中で多くの人に使用されています。日本だけでも、一年間に約八百三十九億立方メートル。つまり、一人で約六百四十四立方メートルもの水を使っています。それだけ水は大切な資源なのです。ですが、水道普及率が約九十七・三パーセントもある日本では、蛇口をひねると水が出る」のが当たり前となってしまっています。もしも、水が蛇口から出なくなったらどうなってしまうのでしょうか。

私の祖母が二十六歳の時、つまり昭和三十六年の時、田辺に台風がきたそうです。その台風がすぎた後、水道管が破れつしたらしく、水が使えなくなったそうです。その時に祖母は、家の井戸水と、給水車から水をもらって過ごしたそうです。祖母は、

水道から水が出なくなって、本当にビックリしたよ。いつ直るかと不安だったよ。家には井戸があったから、洗たくの水とかには困らなかったけど、井戸のないお家は大変だったと思うよ。それと、給水車からもらった水で、お風呂に入ったりしていたから、飲み水に困ったし、なによりも井戸から水を運ぶのが大変だったよ。」

と、話してくれました。この話を聞いて私は、

今まで水は当たり前のように蛇口からでてくるけど、水がでるということは決して当たり前のことじゃないんだなぁ。」と思いました。

もっとくわしく調べてみたら、日本では、一年間の水使用量のうち、最も多く使われているのが農業用水で、約五百五十七億立方メートルの水が使われています。その次が、生活用水で、約百六十一億立方メートルです。そのうち、最も多く使われているのがお風呂二十八パーセントです。

さらに調べてみると、人間の体の六十パーセントが水でできていて、新生児だと、体重の八十パーセントが水でできていることが分かりました。目に見えないほど小さい細胞の中で、水様分子が絶え間なく休まず動き回り、生命を支えているそうです。そのため、脱水症状などを起こすと、あらゆるところで生命維持活動がとどこおり、ひどい時には命に関わる危険性もあるそうです。

今、世界全体の、工業化やさばく化などにより、水が汚染されて、きれいな飲み水が減ってきています。そのため、汚染された水を飲んで病気にかかる人もたくさんいます。私は少しでもきれいな水を増やすために、自分のゴミは持ちかえること、また、他人のゴミをひろうことを心がけていこうと思います。一人でも多くの人が自分のゴミを捨てず、他人のゴミをひろうことで、少しでも川を汚さずにすみます。もし、日本人の人々がこのことを心がけるだけで、病気になる人を一人でも多く減らすことができます。私は、このことを心がけて、水の大切さを忘れずに、水をきれいにしていけるよう、がんばりたいです。

佳作

七十億ℓの水

和歌山県立田辺中学校　三年　西島（にしじま）　華御（はなみ）

蛇口をひねると、きれいな水が出てくる。触れると冷たく、止めなければ出続ける。

何気なく過ぎていく日々の中で、何十キロもの道のりを重い水の入ったポリタンクを背負って荒野を子供が歩いている映像を見かけると、はっとしてしまうことがある。

ついさっきも、歩いていける距離の台所に飲み物をとりにいってきたのを思い返してもそんな暮らしをしている人の気持ちなんて少しも分からなかった。

その時初めて、私は自分が世界の今に対して無知であることを知った。

人口も正確に知らず、調べていると、あるインターネットのページにたどりついた。そこでは、リアルタイムに世界人口が増している様子が見られた。刻一刻とどんどん生まれている光景に、私は息をのんだ。地球上の水をお風呂に張ったお湯だとすると、両手ですくったほどの量しかない人間が使える水を、七十億人を超える人々が絶えず利用し続けていることに。

水が技術発展に使われ、その国全体の経済が潤う。景気が上がり、人口も増えるという先進国があるなかで、私はもっと目立たない部分に目を向けたいと思う。

生まれたくても生まれてこられなかった人。生まれても家族がおらず、一人で生きていくことができなかった人。そして何より、生きるための食料や水が足りずに亡くなっていった人々にこそ目を向けるべきだ。

人は二、三日水を飲まないと命が危険にさらされる。発展途上国では水が足りていない。こんな情報は世間にあふれているのに、現状はなにひとつ変わっていない。

今日も、今も世間のどこかでのどを渇かせて倒れる子供がいる。人口は増え、水は減っていく一方。誰も本当の意味での節水を考えたことがないのではないか。

水に不自由しない日本で、命の危機を感じることなく暮らしている私にできることは限られているかもしれない。

しかし、明るいニュースに隠された世界の問題を知り、少しでも意識を変えることはできる。

身近にも、世界の子供たちに食料や水を与えるための募金や署名運動はある。もちろんこのような活動に参加することは、水に困る子供たちには直接的な助けになるだろう。

だが、それが一過性のものだとしたらどうだろう。今までその活動によりどうにか生きていた人々は、無責任な優しさに傷つけられるだろう。

人が一生で飲む水は、二十五メートルプール一杯分にもなるという。自分も生きていく上で、その量の水を何万人にも止めることなく供給していくことは、一人では難しすぎる。

地球に住んでいるかぎり、どの国も常に水不足と隣り合わせだと思う。だからこそ、助けてと叫んでいる国や人々から目をそむけるのではなく、離すことない手を差しのべるべきである。みんなが助け合い、自分のことだけを考えるのではなく、周りを見て、まず一人一人ができることについて向き合うことができたなら、きっと世界の水不足は解決されるだろう。今日の朝目が覚めた。今、生きている。泣き、笑える。そんな日常を、私は当たり前だと思わないようにしたい。

佳作

水は友達であり命

紀美野町立美里中学校　二年　東浦（ひがしうら）　成人（なると）

僕たちの家は、水道水とは無縁だ。日々の日常生活用水の一切は、自然の恵みに預かっている。四方を山に囲まれ、その斜面からは年中サァーサァーと湧き水が流れる、そばに真っ白く咲く水芭蕉の群れは、今年も春が来た事を教えてくれた。僕はいつも水と手をつないでいたようなものだった。

僕が祖父に

「喉が渇いた」

というと祖父が、自慢気に、

「そこに湧き出ている水を飲むといい。水道水とはちがって、少しあまいぞ。」と僕に言ってくれた。おそるおそる飲んでみると祖父の言ったとおり少しあまかった。幼い頃は毎日飲んでいた。

休みの日になると、僕は祖父を手伝うようになった。それはあの湧き水を飲みたいからである。祖父の手伝いをすると、すぐに田んぼの湧き水に目がいってしまう。キラキラと日の光を受けて、水底の魚が動く様子がくっきりと見え、いつまでも飽きなかった。それを見ていると、思わず手足を突っ込んだ。その時僕は、水と一体になりたかった。

幼い時はよく山からの水で米を作り、育てたスイカやトマトやきゅうりを冷やしたり、野菜を洗ったり泥や汗を流した。すると、疲れがふっとんだ。

しかし、世界では、誰しもがきれいな水を大量に、自由に使えるわけではない。カンボジアに心の井戸を」というノンフィクションがある。子供達は、続いた内戦のため、いつ毒を入れられるか分からない恐怖から井戸も作れず、今も小さな泥の水たまりや、堀の中からくんで水を飲み、魚を洗う。それはあらゆる病の原因となり、乳幼児千人中、百五十人もの命をうばう。これは、日本の死亡率五人と比べると莫大な人数だ。それを見かねた一人の日本の僧の方が、自らその地へおもむき、募金で集めた費用で何十もの井戸を作るのだ。

あるとき、僕の家は水が使えなくなった。水が使えないことを知ったとき、初めは大して重要なことだとは考えもしなかった。断水しても、そのうち水が出るだろうと簡単に考えてしまった。しかし、一時間たっても、二時間たっても水は出ない、そのうちにトイレにも行きたくなった。でも、その時も水は出ない。少し焦りを感じながら、僕は不安な時間を過ごした。

夏の暑い日は喉もかわくことがある。でも、水を飲みたくても飲む水がない。そこで僕は考えた。水たまりから水をくみ出して、トイレを流す水だけは、かくほした。それを飲もうとしたが、どろどろで人が口に出来ない水だった。普段何気なく流していたトイレに水がでないことが、こんなにも大変なことだということをそのとき初めて感じた。

こんなことが起きる前は、安定した水の供給とおだやかな気候に助けられ、水のない生活を味わうことなく過ごして来た。しかし、この幸せな環境が水を貴重な資源だと考える力を弱めてしまったのも事実だ。毎日の生活をふり返ってみても、細かい心配りを怠り、まさしく湯水のごとく水を使い、汚して来たのだ。

ここでもう一度、僕たちに関わる水が生活用水だけではないこと。食を支えるお米から電気化学製品に至るまで、あらゆる面において水が間接的に僕達の生活をサポートしてくれていることを念頭に置き、水資源の有効活用を目指すべきなのだ。しっかりと自覚して行くことで、限られた資源を分かち合い大切に使う心や、美しい風景を守ろうとする気持ちが芽生えてくると思う。水は体で感じ、あじわうものだ。水も命だから、決してむだはない。水を守るために僕は動きます。

佳作

私達の生活と水

和歌山県立向陽中学校　二年　森田（もりた）　七望（ななみ）

みなさんは、水についてきちんと考えた事がありますか？

国語辞典で水という言葉を調べて見ると、水素と酸素の化合物。純すいの物は無色、無味、無臭。普通には、熱くない液状のものをさし、水蒸気、湯、水と区別する。という説明の後に、たくさんのことわざが書かれてありました。

その中で、私は「水は低い方に流れる」と「水は方円の器に従う」の意味を調べることにしました。すると、水には固有の形が無く、容器の形によって四角くも丸くもなる。人が交遊関係によって善くも悪くもなる事の例えだという事が分かり、水の性質を使って表していて、とてもおもしろいと思いました。

そこで、今まで習ってきた事や新しくもらった教科書で水の性質とその性質を生かした物などを調べました。

水は電気を作る事が出来ます。先程書いたように、水は四角や丸など、色々な形になる事ができるので、上から下へと流すことが出来ます。

その力を利用して、私たちの日常生活に欠かせない電気を作っています。水力発電と言い、現在の発電源全体の7、8パーセントをしめており自然の力で発電する方法では、一番多く使用されています。

また、現在では地球温暖化が問題になっていますが、水力発電は二酸化炭素などの地球に害をあたえる物は排出しません。

ですが、事故により原子力発電があまり使われていないため今、一番使われている物は火力発電です。全体の６６・７パーセントが火力発電となっており、だんとつの一番となっています。

火力発電と水は、あまり関係性が無いように思いますが、水はとても重要な役割を果たしています。

それは、水が水蒸気になるという性質を利用した役割です。まず、水を熱して水蒸気にします。その水蒸気が流れる力で、モーターを回し、発電しています。

この発電方法は、電気の出来る量が変わらず、一定で作られていくのでとても便利だと思います。水は、電気を作るのにとても大切な役割をしています。

話が変わりますが、私たちがいつも食べている魚や野菜、果実も水がなければ食べられない物です。魚は、海や川の水の中で生きています。野菜や果実は水が無ければ育ちません。

私たちが生きているのは、きれいな水で育った、野菜や魚などを食べているからだと思います。

日本は、良く雨が降り、高い山がたくさんあるため、急な流れの速い川がたくさんあります。また、水道がきちんと整備されているため、きれいな水をたくさん使うことが出来ます。

しかし、世界全体を見てみるとどうでしょう。水がなく、私達と同じ位の年の子がどろ水を飲んでいるところがテレビに映っていたのを見た事があります。

私は、小学生の時に浄水機を作った事があります。すごく簡単なものですが、水をきれいにする事が出来ました。こんな事を水で困っている人達に伝えて、少しでもきれいな水を飲める人が増えるといいと思いました。

日本の様に、じゃ口をひねるだけできれいな水が出てくる国は数えられる程しかありません。顔を洗う時や歯をみがく時に、水についてしっかりと考えて、水を出す量を少なくしたり、細めに止めるという作業を行ってみてはどうでしょうか？大切な水を未来に残していくために。

第３５回「全日本中学生水の作文コンクール」概要

第３７回「水の週間」の行事の一環として実施された作文コンクールの概要は、次のとおりです。

１　応募要領

①テ ー マ・・・「水について考える」（題名は自由）

②対　　象・・・中学生（中学生と同じ年齢の方を含む。）

③原稿枚数・・・４００字詰め原稿用紙４枚以内、日本語で表記された個人作品に限る。
題名・学校名・学年・氏名（ふりがな）を記入する。

④あ て 先・・・和歌山県庁　地域政策課
〒６４０－８５８５　和歌山市小松原通１－１
ＴＥＬ　０７３（４４１）２４２３

⑤募集期間・・・平成２５年５月１４日締切り

⑥版 権 等・・・○応募作文は自作の未発表のものに限る。
○応募作品の版権は、主催者に帰属する。
○応募作文の返却は行わない。

２　応募状況

応募学校数	応募総数	学年別		
		１年	２年	３年
校	編	編	編	編
１１	５３４	１３８	１５１	２４５

３　審　　査

応募作文５３４編を対象に、和歌山県審査において、優秀賞３編、入選１０編佳作５編あわせて１８編の入賞作文を決定。

（協　力　和歌山市中学校国語教育研究会）

４　表　　彰

（１）賞および賞品

賞	賞　品
優秀賞	賞状、図書カード
入　選	賞状、図書カード
佳　作	賞状、図書カード

（２）表彰式

優秀賞の受賞者を平成２５年８月７日、和歌山県庁において表彰

安全・安心な水のために

第37回

8月1日は　8月1日～7日は

「水の日」「水の週間」

水は限りある貴重な資源です。

「水の日」「水の週間」に関する行事等の情報は、国土交通省ホームページもしくは独立行政法人水資源機構ホームページをご覧ください

水の週間　検索

国土交通省・都道府県・水の週間実行委員会